信州大学教育学部同窓会館＜仮称＞整備計画（案）

28.8.11

※「同窓会館＜仮称＞は、以下「同窓会館」と記す。

1　同窓会館整備に向けた経過

教育学部同窓会創立以来、同窓会館の設置は、同窓会員共通の願いであった。その願い達成に向け、会員からの会費を積み立ててきたが、新たに土地を購入し、会館を建設するには資金的に遠く及ばず、断念せざるを得ない状況であった。

そんな折、一昨年発生した長野県北部を中心とした地震により、教育学部キャンパス内にあるレンガ書庫の内部が損傷し、書庫として利用することが困難な状況になったとの情報が入った。学部に確認すると、建物の所有は大学ではあるが、整備をして同窓会で使うことは構わないとのこと、早速会長を中心として、検討を進めてきたところである。

来年度同窓会創立30周年を迎える折、記念事業の一つとして同窓会館の整備を位置づけ、平成27年11月の第2回理事会、2月の臨時理事会、平成28年6月の第1回理事会で審議し、以下の計画進めていくことを決定した。

それを受け、本年度第29回通常総会において承認いただくべくお諮りするものである。

2　同窓会館整備の目的・意義

○　会員の心のよりどころとなる同窓会館

会員約２万人にのぼる組織であるにもかかわらず、これまでは具体的にイメージするものが、会報以外にはなかった。レンガ倉庫は、師範時代からの教育学部のシンボル的建造物であるため、これを同窓会館とすることで、会員共通の心のよりどころとなるとともに、「同窓会って何をやっているの？」「同窓会ってどこにあるの？」という声にも応えられるものとなる。

○　会員相互の交流の場となる同窓会館

学生も含め、同窓会員が集う場として、気軽に使用できる会館とする。

学科・研究室・サークル単位はもちろん、気の合う仲間同士で、会議や研究会、作品展示、ミニコンサート、茶話会、会食などで利用することが可能となる。

この同窓会館が、卒業生と在学生との接点となり、その中で将来教育関係の道を目指す学生への支援やアドバイスの場が生まれることも期待したい。

○　在学生や教職員も利用できる同窓会館

在学生は授業やゼミ、サークルの発表等で、教職員は会議や研究会、小規模の学会等で利用できるようになる。普段とは違う環境の中で、新たな発想、アイディアを創出することが期待できる。

○　同窓会の歴史を伝える同窓会館

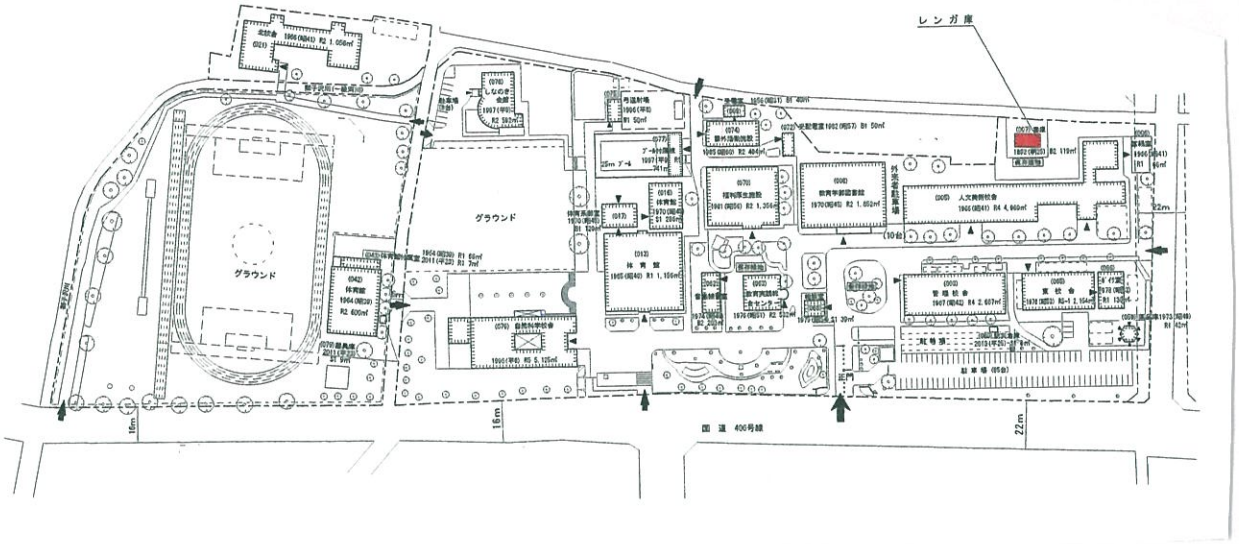
教育学部同窓会は創立から30周年を迎えようとしているが、明治6年の師範学校の始まりから数えると140数年の歴史がある。資料の保管・展示などを通して、可能な限り、その歴史を後世に伝える会館としていきたい。

○　歴史的建造物である赤レンガ倉庫の永久保存

明治28年に建設された国登録有形文化財の歴史的建造物である。これを同窓会館として整備、活用することは、貴重な文化財を永久に後世に伝えていく上で、大変に意義のあることである。

3　整備する施設

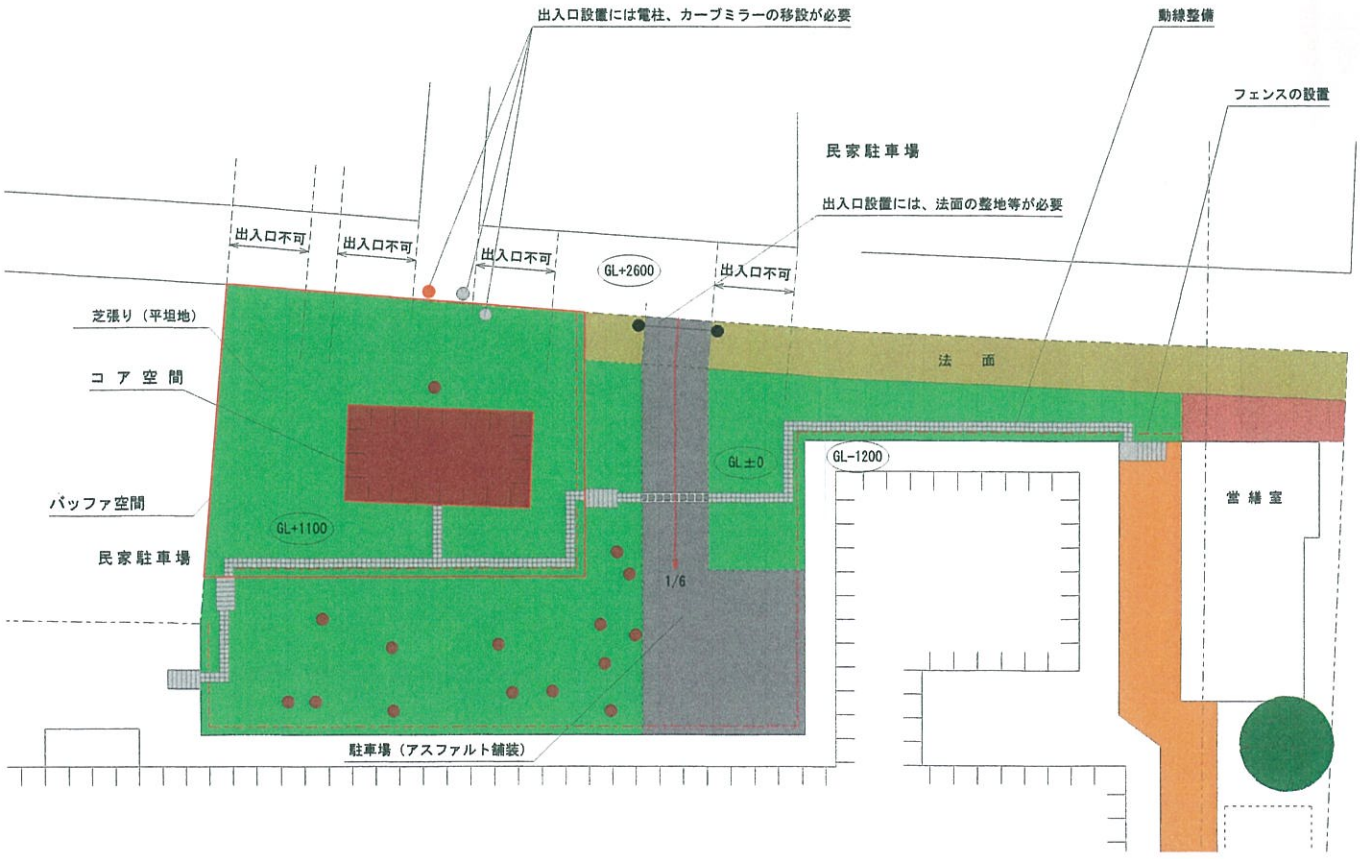
「教育学部書庫（旧長野県庁書籍庫）」



※この書籍庫は、明治 28 年（1895 年）長野県庁書籍庫として建設されたもの。平成 20 年（2008 年）国登録有形文化財に指定。（詳細は別紙資料）

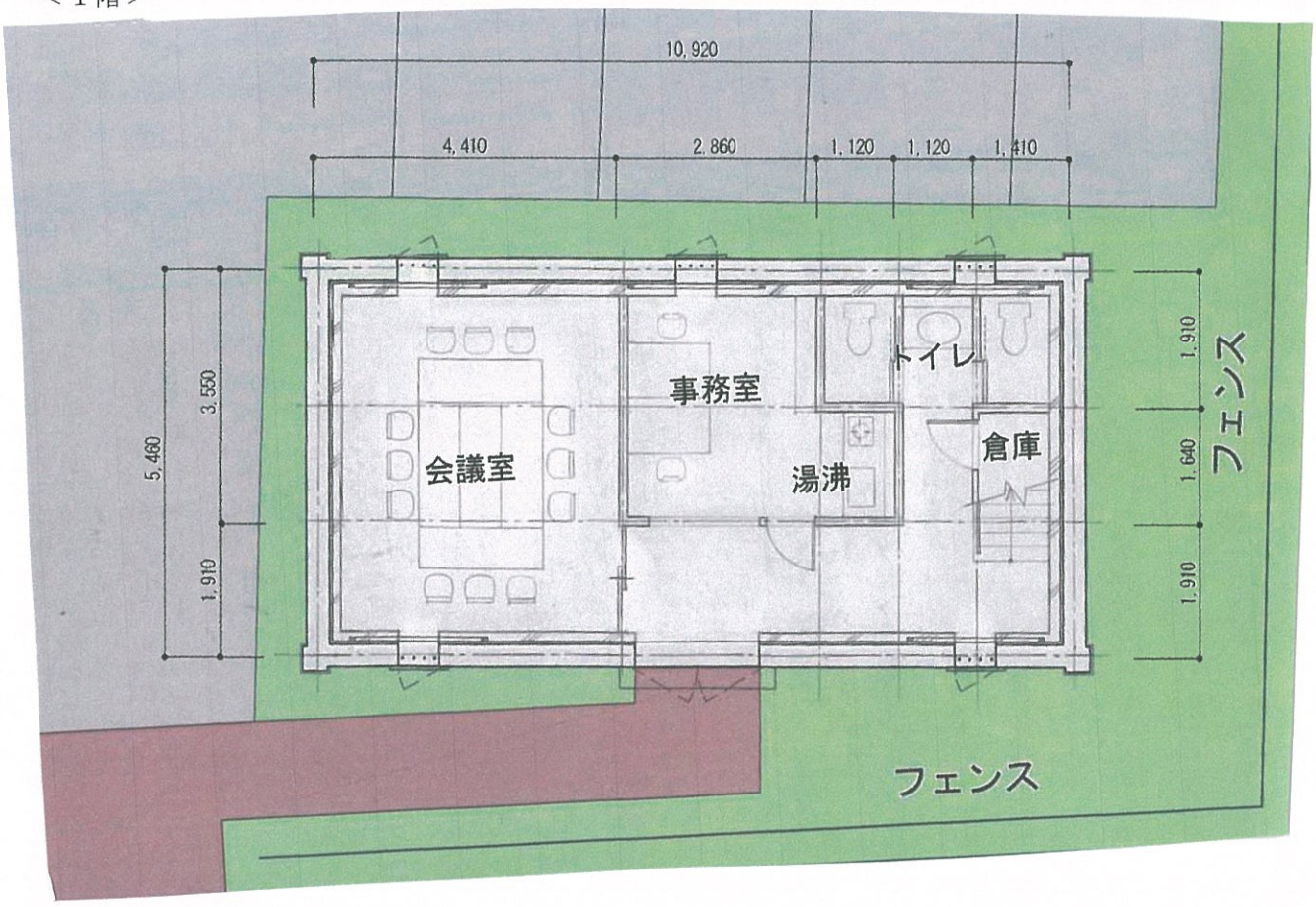
5　整備の概要

○　レンガ倉庫及びその周辺

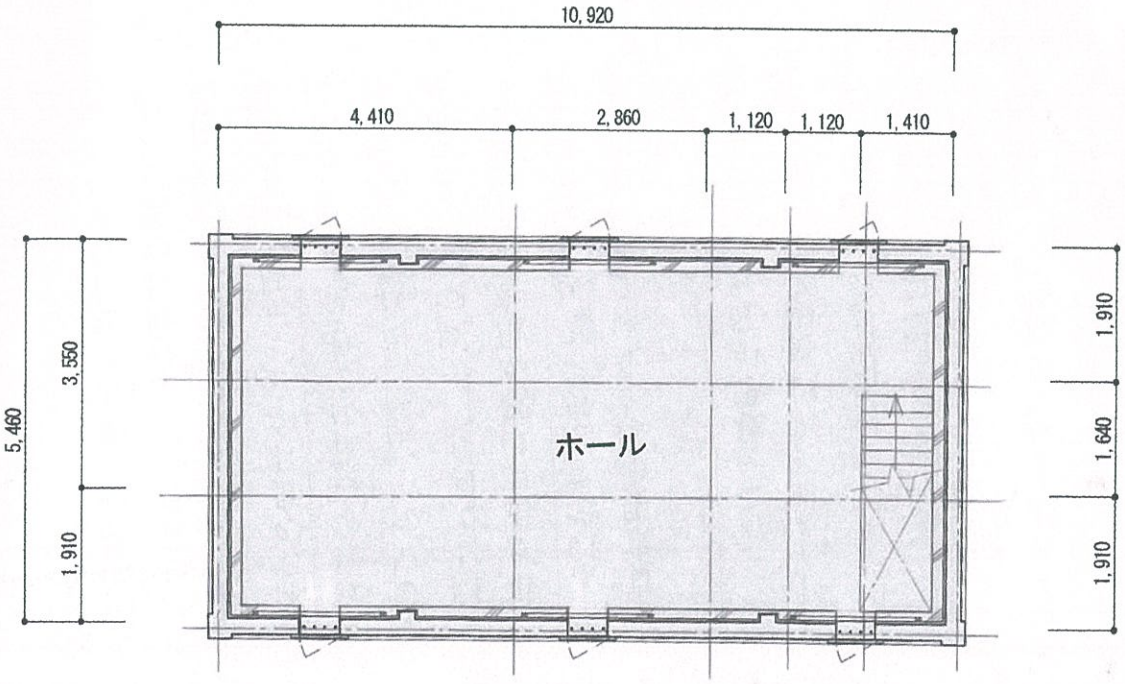


○　レンガ倉庫内の整備（例）

＜１階＞



＜２階＞



6　設計及び施工業者の選定

○　学部管理係の指導・協力のもと、同窓会で発注する。

○　設計事務所と工事業者を別に発注する（分離発注）。

○　設計事務所：（株）宮本忠長建築設計事務所（住所：長野市柳原 1875-1、TEL：026-241-5510）

○　工事業者の選定

①　設計事務所から見積書作成を依頼する工事業者へ設計図を渡す。

②　工事業者か　　ら見積書を設計事務所へ提出する。

③　設計事務所は見積書の内容を精査し、問題がなければ最低額を見積もった工事業者を工事請負業者（案）とする。

④　同窓会館整備委員会にて、工事請負業者（案）について審議し、承認後に工事業者と契約を行う。

7　事業費（予定）

○　総額　約 47,000,000 円　※耐震補強工事、外構工事含む。「基本財産」より支出

○　内訳

				備考
①工事	補強工事	7,000,000		
	外壁改修	1,800,000		
	屋根改修	2,000,000		
	内装改修	1,600,000		
	建具工事	1,000,000		
	外構	6,400,000		駐車場・芝生化
	少々計	19,800,000		
	諸経費	7,800,000	40%	
	小計	27,600,000		
②工事	レンガ庫改修	6,443,000		照明・通信・空調
	建築工事	202,000		ｱｽﾌｧﾙﾄ復旧
	電気工事	1,375,000		幹線
	機械工事	3,051,000		給排水引込
	小計	11,071,000		
工事合計	計	38,671,000		
	消費税	3,093,680		
	合計	41,764,680		
③設計監理費	現地調査	89,700		
	打合せ	59,800		
	作図	598,000		
	積算・内訳作成	299,000		
	補強計算	299,000		
	小計	1,345,500		
	監理打合せ	598,000		月2回程度
	検査立会い	179,400		
	小計	777,400		
	諸経費	1,804,465		
	技術経費	700,635		
	小計	2,505,100		
	計	4,628,000		
	消費税	370,240		
	合計	4,998,240		
	総合計	46,762,920		
	事業費	**46,770,000**		

8　今後の推進日程（概要）

①　平成 28 年 9 月　設計事務所と設計・管理委託契約の締結

②　平成 28 年 9 月　信州大学工学部土本教授、財務課資産管理グループ、環境企画課、長野市文化財課への事業概要の説明

③　平成 28 年 10 月　信州大学長へ事業計画書の提出

④　平成 29 年 2 月　施工業者と工事請負契約の締結

⑤　平成 29 年 7 月　工事完成

別紙資料　**【信州大学教育学部書庫】**

～案内板～

登録有形文化財　信州大学教育学部書庫
（旧長野県庁書籍庫）

この書庫は、明治28年（西暦1895年）に長野県庁舎の書籍庫として建設されました。当時の県庁舎において現存する唯一の貴重な建物です。明治41年（西暦1908年）5月の県庁舎焼失を機に県庁舎は現在の南長野に新築移転しましたが書庫は焼け残り、明治44年（西暦1911年に長野師範学校（現信州大学教育学部）が譲り受け、現在も18,000冊ほどの書籍を保管しています。

煉瓦造2階建て、瓦葺、建築面積59㎡の和洋折衷の建物で、四隅に煉瓦で柱を表現し、「焼過煉瓦」と呼ばれる色の違う煉瓦を建物の中央に帯のように使用しているのが特徴で、開口部は南面の出入り口に、鎧戸が設けられており，窓は南北面に一定間隔に計10箇所あります。窓台には石材を用い、まぐさはフラットアーチ（陸迫持）で、軒先には巴瓦と唐草瓦を用い、小屋根は松材による木造洋小屋組になっています。また、煉瓦の目地材には石灰モルタルが使用され、躯体煉瓦には長さ240㎜、幅115㎜、厚さ60㎜のイギリス積みで、フランス積みに比べると施工能率がよく、耐震性にも優れています。

この書庫は、屋根の雨漏りや内部の一部に補修がなされているものの、現在では入口上部の庇がなくなっているという点を除き、構造やデザインはともに建築当時の姿をとどめており、登録有形文化財登録基準の「－国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する歴史的な建物です。

平成２０年７月２３日　　登録告示日

信州大学

＜書庫内部＞

①　H26の県北部地震による被害で、約18,000冊の収蔵書籍が運び出された後の内部（H27.11.5）

1階

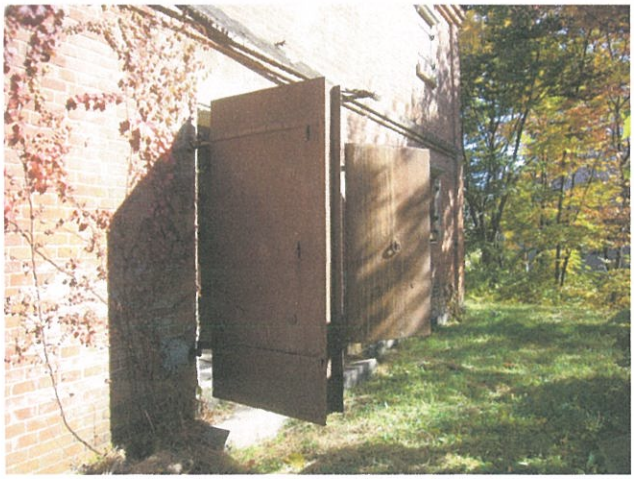
2階

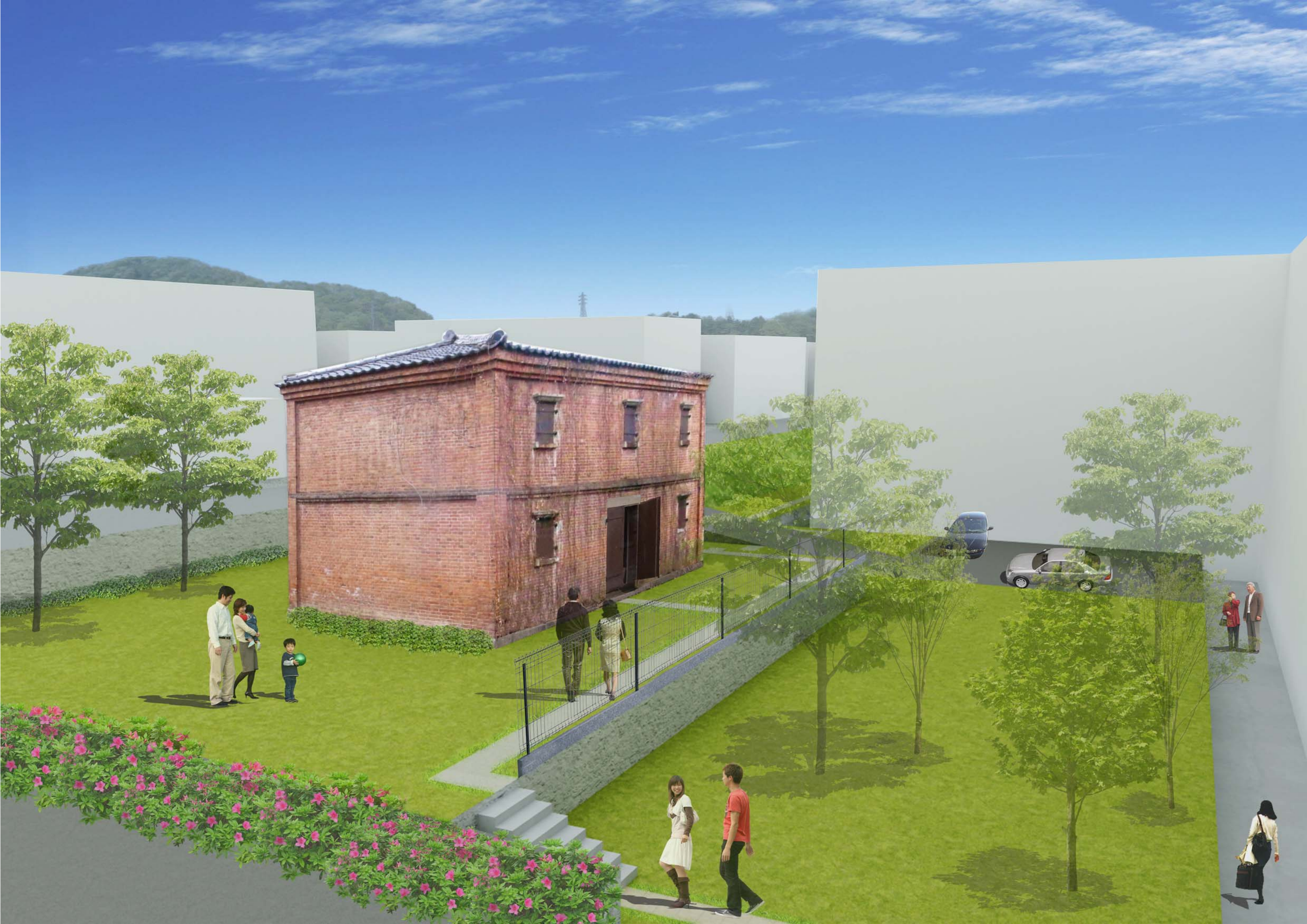
② H28年1月、地震により崩れた壁の修理が行われた後の内部の様子

1階

2階への階段

2階



出入り口の扉

2階天井の梁組